

1 生きる力を育む知・情・意・体の調和的発達を図る保・幼・小・中学校教育を推進する

NO 1

主管	教育委員会			教育委員会評価委員
	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	意見
学校教育課	①移行措置に対応した教育課程の編成を図る	適切な教育課程の編成と時数の確保	各校ともに移行措置期間に対応した教育課程を編成し、実践した。  各校ともにインフルエンザによる学級・学年閉鎖に対応して、週当たりのコマ数を増やしたり、冬季休業日中に補充授業を行ったりして時数の確保に努めた。	○新しい教育課程の全面実施に向けて小・中学校ともに学習の基礎・基本の定着を図った試みが学校全体として取り組まれている。また、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れて、思考力・判断力・表現力の育成にも力を注いでいる。 ○スムーズに移行ができるように各校の実情に合わせて計画的に教育課程の編成に取り組んでいる。 ○実験等の教材・教具も整備されつつある。 ○各校とも学級・学年閉鎖に対しても適切に対応している。 ○学習環境の整備をより充実させることで、教師の指導力をさらに向上させることができる。
		学習環境の整備	理科教材を中心に移行措置に対応した教材・教具の整備を計画的に行った。	
学校教育課	②児童生徒の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る	少人数指導等の充実	学校の実態に応じて、県の少人数指導加配教員とともに町講師等を配置して個に応じた指導の充実を図った。  各校において、実態に応じてT・T指導、習熟度別指導等指導体制を工夫して学力向上に努めた。	○学校の事情に応じて町独自の講師を配置していることは、少人数指導や複数担任制の充実に大いに役立っている。 ○朝の活動にPTAボランティアを活用して、きめ細やかな指導に生かしている学校もある。 ○各教職員の連携も深まり少人数だからできるきめ細やかな指導ができている。 ○パソコンサポートの成果が児童生徒だけでなく、教職員にも浸透してきていることが分かる。
		複数担任制等の実施	各校の実態に応じ、加配教員の活用、県非常勤講師の派遣、町講師・生活支援員の配置により指導の充実を図った。	
		パソコンサポートの充実	各校に一月当たり3日間パソコンサポートを派遣し、児童生徒の学習や教職員の校務のサポートに努めた。	
学校教育課	③個々のニーズを把握し、適切な指導や支援を行う「特別支援教育」を推進する	町特別支援連携協議会の開催	年間3回協議会を開催し、事例研究・実態等協議し、学校・専門機関・教育委員会との連携を図るとともに、専門講師を招聘して指導方法の研修を行った。	○協議会において充実した研修内容が行われている。 ○情報交換の場を充実することは意義が大きい。 ●特別支援連携協議会の開催が学校・専門機関・教育委員会とのより具体的・現実的な連携にさらに寄与できることを期待したい。生活支援員の役割を明確化することと、特別支援教育部会のさらなる支援体制の強化が必要である。 ●保護者の理解を得るとともに、支援の実態が保護者を含めた地域社会に知らされれば子ども達がより生活しやすいのではないかと。 ●生活支援員の配置については、学校の実態に対応しており、今後要望が強くなると思われる。継続して生活支援員を配置し、日常指導等きめ細やかな指導を望む。
		生活支援員の配置	各校の実態に対応し、各校1名以上の生活支援員を配置した。特に重点校には増員を図り支援に努めた。	
		町一貫性教育における連携	特別支援教育部会において、実地研修や事例研究を行い、保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携と指導力の向上を図った。	
		支援体制の充実	各校において、校内支援体制が確立されるとともに、関係機関との連携が図られた。また、学校の要請に応じて支援に努めた。	

1 生きる力を育む知・情・意・体の調和的発達を図る保・幼・小・中学校教育を推進する

NO 2

		教育委員会		教育委員会評価委員
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	意見
学校教育課	④学力・学習状況調査の結果と学力向上の研究成果を生かした学習指導・授業改善を図る	<p>全国及び県学力・学習状況調査の実施・分析</p> <p>町学力調査の実施・分析</p> <p>町一貫性教育における研修</p>	<p>各調査結果の分析を行い、学校と町全体の実態・課題について共通理解して進めることができた。</p> <p>各学校は分析と改善策を提出するとともに、授業改善に活用した。</p> <p>4月小学校2～6年生に国語・算数・意識調査を、中学校1・2年生に国語・数学・理科・意識調査を実施した。実施時期の変更により、2月には小学校1～6年生に国語・算数・意識調査を実施した。</p> <p>学習部会を中心に、各校の学力向上・授業(保育)実践について実践発表を交えて情報交換した。</p>	<p>○全国や県における学力・学習状況調査、そして、町独自の学力調査の実施により、生徒の学習状況を的確に把握するとともに、町一貫性教育に関する研修を積極的に行っている。</p> <p>○調査結果を深く分析し、次に役立てていることを評価する。</p> <p>○各調査結果の分析と情報交換により連携した先生方の指導と地道な教育の成果が表れている。</p>
学校教育課	⑤一人一人の人間力を豊かにする道徳と保健体育指導の充実を図る	<p>道徳の日の充実</p> <p>全国体力・運動能力調査の実施・分析</p> <p>小児成人病予防対策の実施</p>	<p>各校において「道徳の日」を実施して、道徳的実践力の向上に努めた。</p> <p>小学校5年生、中学校2年生で実施した結果について、町全体の実態・成果・課題を各校に周知して、共通理解を図った。</p> <p>町一貫性体育部会において、体力データの分析や体づくり運動・授業の工夫について情報交換し、実践に生かした。</p> <p>各校において、実態に応じた体力向上のための施策を工夫し、継続的な取組を行うことにより効果を上げている。</p> <p>小学校4年生の希望者を対象に予防検診(採血)を実施した。受検者(94.6%)のうち約25%が要指導・要精検が必要であった。</p> <p>今年度は、低身長・軽体重について指導があり、保護者に病院への受診を勧奨した。</p>	<p>●道徳の時間は親子で学ぶ場を設けることも必要である。</p> <p>○全国体力・運動能力調査の実施により、児童生徒の体力等の状況を的確に把握するとともに、町一貫性教育に関する研修を積極的に行っている。</p> <p>○各校ともデータ分析に基づき、保健体育の指導に工夫を凝らし積極的に取り組んだ結果、効果を上げている。</p> <p>●小児成人病予防対策の中で、今後肥満傾向が増大すると思われ、児童生徒への対応をさらに工夫していくとともに食育の充実が必要である。</p>
学校教育課	⑥町ALTを活用した外国語を通じたコミュニケーション力の育成を目指す	<p>町単独ALTの配置</p> <p>英語研修会の開催</p>	<p>町単独ALT1名を配置し、綾南中学校を拠点校として小・中学校に計画的に派遣した。</p> <p>小学校においては、外国語活動の時間を5・6年生に35時間を位置づけるとともに、他の学年も年間計画に基づいて英語活動がスムーズに行われるようになっている。</p> <p>小学校外国語活動の導入に伴い、英語ノートを活用して英語活動研修会を実施した。具体的実践例を多く取り入れて研修したことで指導技術の向上につながった。</p>	<p>○町ALT雇用により派遣回数が増え、小学校低学年にも実施でき効果を上げている。</p> <p>●町ALTの効率的で有効的な派遣システムの構築が急務である。そのためには、効果的な活用法の検討が急がれる。</p> <p>●児童が偏見なく外の世界に興味をもつきっかけになるとともに、児童の立場に立って外国語活動が実践されることを望む。</p> <p>●町ALTの効果的な活用と学校間の格差が生じないように学校間の調整とともに、研修した指導技術を大いに役立ててほしい。</p>

1 基本的生活習慣の充実と豊かな心を育む体験重視の教育を推進する

NO 3

主管	教育委員会			教育委員会評価委員
	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	意見
学校教育課	⑦地域ぐるみのあいさつ運動、温かい声かけ運動を実施する	<p>あいさつ運動の実施</p> <p>愛のひと声運動の実施</p>	<p>各校において工夫したあいさつ運動が実施されている。全国学力・学習状況調査結果から小学校においては、全国・県の平均を大きく上回っており成果が表れている。</p> <p>民生児童委員協議会において、実態や取組について情報交換し、地域全体で推進に努めている。</p>	<p>○笑顔で気持ちのよいあいさつをする児童生徒が多くなり、地域の評判がよくなった。</p> <p>●家庭や地域でのあいさつ運動の広がりは、十分とは言えず、地域や各種団体に協力依頼し、学校だけでなく、家庭・地域の大人が積極的にあいさつ運動の良きモデルとなる必要がある。</p>
学校教育課	⑧家庭と連携した食育を推進する	<p>「早寝早起き朝ごはん」運動の推進</p> <p>「弁当の日」の実施</p> <p>学校栄養教諭等による指導の充実</p> <p>地産地消の推進</p> <p>学校給食会の運営</p>	<p>各校において基本的生活習慣を身につける指導が重点的に行われている。</p> <p>朝ごはん摂取率については、全国・県平均より上回るとともに、昨年度との比較においても上回っている。</p> <p>小学校5校、中学校1校において「弁当の日」を実施して、食育の推進に努めた。</p> <p>給食指導だけでなく教科等とも連携して指導する機会が増え、食に関する指導が充実した。</p> <p>毎月1回野菜納入業者と献立作成担当栄養士と献立会を開催し、旬の野菜と価格について話し合い献立を修正する場をもった。12月までに平均35パーセントとなった。(20年度平均25.7パーセント)</p> <p>学期に1回食材見積り合わせ会を開催し、保・幼・小・中における食材単価の統一と安全安心な食材の納入に努めた。</p>	<p>○より良い生活リズムに裏付けられた生活習慣を身につける指導を重点的に行われていることの成果が表れてきている。また、地産地消の推進も弁当の日や各種の取り組みによって、推進されている。</p> <p>●弁当の日ばかりがクローズアップされているが、家庭での食育も大切である。</p> <p>○弁当の日は定着しつつあり、弁当作りが自信につながっている。食材に興味関心をもち、友達とのコミュニケーションが図れるとともに地産地消の推進にもつながっている。</p> <p>●早寝、早起き、朝ごはんの生活習慣は継続的に指導する必要がある。</p> <p>●栄養教諭の指導に関しては、さらなる活用方法や指導方法の改善が望まれる。</p>

1 基本的な生活習慣の充実と豊かな心を育む体験重視の教育を推進する

NO 4

		教育委員会		教育委員会評価委員
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	意見
学校教育課	⑨問題行動や不登校問題への対応を図る	スクールカウンセラーの配置	<p>中学校を拠点としてスクールカウンセラーを配置して、教育相談体制の充実を図った。</p> <p>特別支援教育連携協議会や各校のケース会にも参加して、指導助言していただくとともに、連携を深めることができた。</p>	<p>○スクールカウンセラーは、今や無くてはならない重要な役割を担っている。</p> <p>●教育相談体制の充実のため、その活用方法が今後さらに問われてくる。社会福祉士の配置がなされてきたが、その役割については、運用面での検討が必要である。</p> <p>●問題行動、不登校への問題は根深く、努力をしながらの問題解決が重要である。</p> <p>●スクールカウンセラーの活用と同時に教員全員がカウンセリングができるように研修に努める必要がある。</p> <p>●関係機関の指導・助言を得るとともに学校、家庭、地域が連携して事前に悩みを発見できるようにする。</p> <p>●スクールカウンセラーや社会福祉士、生活支援員との連携した指導と保護者への理解を得る必要がある。</p>
		社会福祉士の配置	<p>7月から県福祉士会との業務委託により小学校の問題行動等の解決のために社会福祉士の配置を行った。</p> <p>指導を要する児童に福祉的にアプローチする必要性や問題の改善・解決に向けての取組に対する方向性が共有できた。</p>	
		町一貫性教育等による連携	<p>健全育成部会を中心に情報交換を行い、各校種の実態と指導内容について理解が深まり連携が図れた。</p> <p>警察等関係機関との連携を図る会を実施し、教育委員会・学校・関係機関が連携して指導に当たる体制づくりに努めた。</p>	
学校教育課	⑩勤労観の涵養と自己有用感の育成を図る	職場体験活動の充実	<p>商工会や地元企業の協力により、各中学校において2年生で実施し、延べ66箇所の職場で体験活動をした。</p>	<p>○地元の協力と支援のもと、職場体験が年々充実してきている。この体験が家庭や学校生活にどのように生かされているかについての検証にも力を入れてもらいたい。そのことが、家事分担の推進にも好影響を与えるものと考えられる。</p> <p>○職場体験活動は働く尊さ、労働の大切さを教えるうえで大変重要であり継続することが望ましい。</p> <p>○受入先である商工会や地元企業のご理解・ご協力で貴重な体験ができています。</p> <p>○家事分担の積極的推進に「お手伝い」を位置づけたことは、家族とのコミュニケーション作りにも役立っている。今後も家庭と地域を取り込んだ活動に期待する。</p>
		家事分担の積極的推進	<p>「お手伝い」を日常生活に位置づけたり、長期休業日を中心に奨励したりして推進した。</p> <p>全国学力・学習状況調査の児童生徒の意識調査の結果から、児童についてはお手伝いをしているという肯定的回答が県・全国よりも10ポイント以上高い。</p>	

3 保護者や地域社会から信頼される学校づくりを推進する

NO 5

主管	教育委員会			教育委員会評価委員
	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	意見
学校教育課	⑪学校の説明責任を明確にした学校経営と学校改善に生かす学校評価の充実を図る	学校評価推進委員会の開催	昨年の実績により、各校の学校評価システムがほぼ構築されており、今年度の開催は1回とした。	○学校評価に関しても、学校関係者評価委員の積極的な関与によって、充実したものになってきている。学校開放も推進し、学校への関心が高まっている。今後も学校便りやホームページ等の活用を進めて、開かれた信頼される学校作りを推進してほしい。 ○学校関係者評価は学校との連携が図られ、学校改善に大いに役立っている。 ○学校評価制度は学校改善につながり、よい結果が表れている。
学校関係者評価委員の委嘱		各校から推薦された5名の学校関係者評価委員を委嘱し、各校の学校関係者評価委員会において職責を果たした。		
自己評価・学校関係者評価の公表		各校の自己評価書・学校関係者評価書については、学校便りやホームページ等を活用して保護者・地域住民に公表されている。		
学校公開と情報提供		自由参観・オープンスクールを設定し、積極的に学校公開を行うとともに、学校便り等により情報提供している。		
学校教育課	⑫地域と連携した幼児、児童、生徒の安全確保に努める	配信メールの活用	不審者情報7件、防災情報1件の配信を行った。 アドレス登録方法、運用面に課題があり、本年1月をもって本システムを廃止した。不審者情報提供は、県警ヨイチメール登録を保護者に勧奨した。	●学校配信メールシステムは、生徒の安全を確保するための必要十分条件である。また、地域の見守り隊と称するボランティアの積極的参加をさらに推進していくことが重要である。 ○地域ボランティアの協力により地域の人達とのコミュニケーションが図られ子ども達に思いやりの心が生まれている。 ●登下校の安全確保については、地域住民の支援ならびに各種団体の協力が必要である。 ●交通安全指導の徹底とマナーの向上を図るとともに、子ども自身にも自分の身は自分で守る意識付けが肝要である。
地域ボランティアによる登下校の見守り		地域の各種団体の協力のもと、登下校時の見守りや交通指導が行われた。		
校舎安全対策		滝宮小学校耐震補強・大規模改造工事を行い、小学校は全校耐震化が図られた。		

4 教育に関わる全てのものの資質向上を推進する

NO 6

主管	教育委員会			教育委員会評価委員
	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	意見
学校教育課	⑬「教育のプロ」を自認できる教師と生涯学習指導者の育成を図る	各種研修会の実施	町一貫性教育研究会部会研修を中心に研修が行われた。また新しく町健康・スポーツリーダー研修会を開催し、保育所・幼稚園・小学校・中学校・一般から参加し身体づくり、体力向上に関する指導技術を学ぶことができた。	<p>○学校種を超えた研修会の開催は、児童生徒の成長発達を見据えたものとして、非常に意義ある取り組みである。ぜひとも継続発展させてもらいたい。その際、研修内容も常に現場に適した内容となるよう鋭意工夫が必要である。</p> <p>○各種指導者の指導技術を向上させることは、児童生徒の向上にも役立っている。</p> <p>○機器の設備が整い、使いやすくなっている。</p> <p>●OB講師による学校の実態に即応した話を聞く機会もよい。</p> <p>●パソコン関係の設備の充実と管理体制の確立が急務である。</p>
		教育設備等の充実	教育用・校務用パソコン機器の更新及び教科ソフトの導入など、基幹的なICT環境の整備を行った。	
学校教育課	⑭保・幼・小・中学校連携による教育実践の充実を図る	小・中学校の連携強化	町生徒指導小・中連携会を開催し、生徒指導に関する町内の児童生徒の実態を共通理解するとともに、関係機関との連携が図られた。	<p>○目的に応じた情報交換や研修が行われ教育実践の充実が図られている。</p> <p>●町一貫性教育研究を充実させるためには、幼・保・小・中の連携を強化することを念頭においた交流会や研修会をきちんと位置付けることが最重要課題である。</p>
		保・幼・小学校の連携強化	各種研修会や、授業・保育参観における幼児と児童、教師同士の交流を通して連携が図られた。	
		町一貫性教育研究会の充実	それぞれの部会において、ともに研修したり、情報交換したりすることにより、異校種間における実態や現状の理解につながった。	